

平成31年2月県議会定例会が開催されました！！

皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は佐地茂人の活動にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

平成最後の、私にとっては2期目の任期最終の県議会定例会(平成31年度当初予算審議)が開催されました。今回の定例会は、新たな時代を感じるテーマが節々にみえる議会でありました。

「自民党が変われば、議会が変わる!!」という先輩の言葉を胸に、会派では日々、些細なことでも見逃さないよう心掛け、地域の意見を大切にしてきました。一方、変化が必要な大局では、堂々と意見し、知事へも是々非々で対応してきたと思います。

今後も責任政党(自民改革会議)の一員として、地に足を付け、汗を流し、県民の皆様のために誠心誠意、心を込めて活動していきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

静岡県議会議員 佐地 茂人



2月22日、県議会2月定例会にて一般質問を行いました！！

今回は大きく7点の質問を行いました。

テーマ①：「子どものスマートフォン使用について」と題し、発達期子どもたちに与えるスマホの影響は、学力の低下、不規則な生活や依存症など多くの負の出来事が心配される。スマホのヘビーユーザーは認知制御に関わる脳機能の発達に悪影響を及ぼす可能性があるとの著書も存在するが、県はスマホの与える影響をどのように把握し、保護者や子どもに伝えるのか。また、スマホ活用の「規制」と「教育」についてはどうするか？

アンサー：来年度は、専門の医療機関の協力を得ながら、ネット依存症対策に取り組む。依存傾向のある児童生徒について、自然体験による回復プログラムを実施する。今後はネット依存対策を進める上で得られた知見を広く周知する。「規制」によらず、安全・安心で節度を持って使用するように「教育」していく。との答弁がありました。

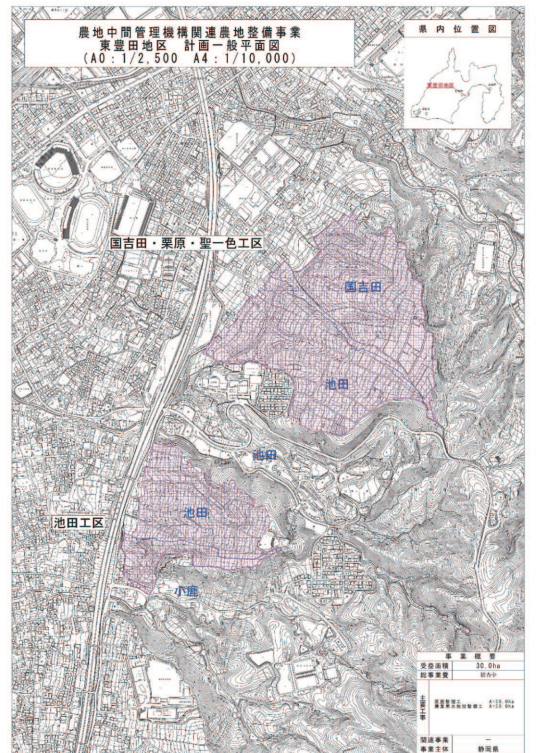
私からは、科学的エビデンスがまとまり次第、使用時間を「規制」する必要性を要望しました。

テーマ②：「都市近郊農業の振興について」日本平の基盤整備事業をどのように進めていくのか、また、都市近郊農業の振興策についてどのように考えているのか？

アンサー：静岡市やJA静岡市と連携し、東豊田地区の約30ha規模の農地を対象にして、担い手への農地集積やオリーブ等の新規作物導入などを検討し、事業手法として農地中間管理機構の関連農地整備事業を活用し、2020年度の事業開始を目指し、区画整理事業の計画策定を進める。

静岡市の市街地近郊を中心にイチゴやトマトなどの施設園芸が盛んなことから、ハウス内の温度や湿度、二酸化炭素濃度などを制御する機器の導入を支援し、環境モニタリングによる生産性の向上を促進する。

また、生産者やJAと連携し、新規就農希望者の受入体制を整え、新たな担い手を増やす。との答弁がありました。



テーマ③：「フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトの推進について」と題し、フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト第2次戦略計画の課題についてと次期戦略計画へどのように繋げていくか？

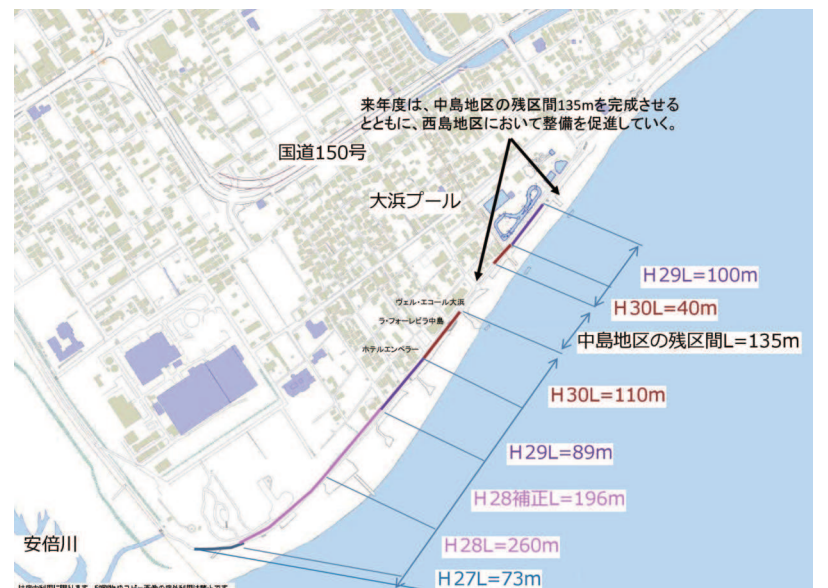
アンサー：知事より、成長著しい化粧品分野において、県工業技術研究所が県産の農林水産物を素材とした化粧品開発に取り組んでいる。また、植物由来のCNFを使用した機能性食品の開発、先端科学技術を担うAOIプロジェクト、マリンバイオプロジェクトとの連携を強化していく。今後、健康・長寿への関心の高まりなど、時代の潮流を見据えたプロジェクトの展開を戦略検討委員会でもんでいく。結局は人(人材)、機能性食品等の開発を担う実践的かつ高度な人材の育成を図り、蓄積したデータを公表し、実際に活用してもらい、イノベーションに繋げる。そして、食品・化成品関連産業の一層の集積を図り、生産額、販売額の拡大を目指す。との答弁がありました。

テーマ④：「静岡海岸における海岸堤防のかさ上げ整備について」と題し、津波が堤防を乗り越えることになれば、多くの尊い人命を危険にさらす恐れがある静岡海岸の安倍川河口から浜川河口までの区間整備について、31年度の施工箇所予定も含めて、今後どのように事業を進めていくのか？

アンサー：安倍川河口から浜川河口までの約2.4km区間は、議員ご指摘の通り、海岸堤防の背後まで市街地が迫ることに加え、中島浄化センターや特別養護老人ホームが位置することから、安倍川左岸の中島地区から東に向けて工事を進めている。今年度末時点で約870mが完了する予定であり、来年度は、中島地区の残区間135mを完成させるとともに、西島地区において整備を促進していく。アクションプログラムの計画期間である2022年度内に海岸堤防に隣接して人家が連なる優先度の高い区間が、完了できるよう国への働きかけなど必要な予算の確保に努めていく。との答弁がありました。

その他、テーマ⑤「AIやICTを活用した公共交通の推進」

テーマ⑥「障害者就労施設等への発注拡大に向けた取組」について質問しました。



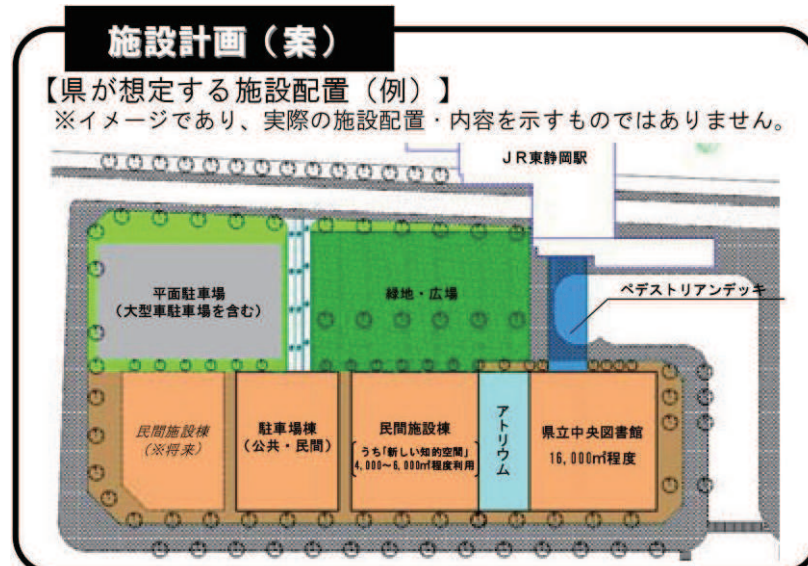
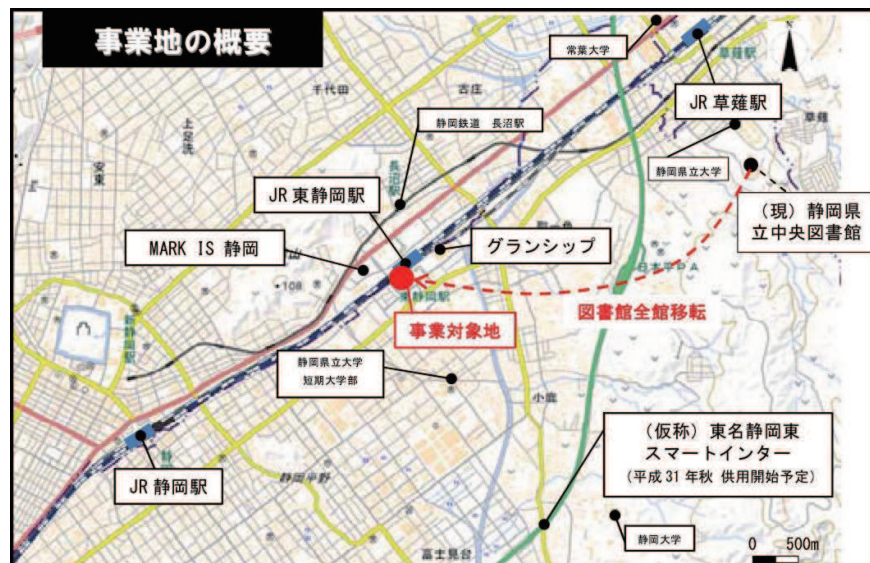
テーマ⑦：「警察施設老朽化対策等について」と題し、警察署の機能強化や求められる新たな機能の検討など、今後建設を予定する警察署の在り方を研究し、老朽化対策(建替)を進めていくべきであるが、静岡南署の建替えと老朽化した交通管制センターについてどのように進めていくのか？

アンサー：静岡南警察署については、築36年が経過し老朽化が進み、また、エレベーターが設置されていないなど、利便性に課題がある施設であると認識している。将来的に庁舎の建替えにより、エレベーターの設置を含めたバリアフリー化を進める。また、交通管制センターについては、築44年が経過し、庁舎、設備ともに老朽化が進んでいることから、耐災害性能の強化を図るため、近い将来の改築について検討していく必要がある。

これに対し、私からは静岡南警察署の機能強化と一刻も早い庁舎の建替えを強く要望しました。

31年度自民改革会議代表質問では、

テーマ① 文化力の拠点（東静岡駅南口整備）に導入する機能や規模、事業手法と具体的な整備方針とスケジュールについて質問し、知事からは、約1.5ヘクタールを施設計画エリアとして、図書館棟、民間施設棟、立体駐車場棟を配置し、機能としては県立図書館、文化を体験し創造する「新しい知的空間」、及び大学コンソーシアムを公的機能として整備する。民間では、食と茶の魅力発信するレストランやカフェ、AIやICTなど先端技術を有する企業の集積を図る。また、図書館をPFI手法で民間施設棟を定期借地権方式で全体を一括で公募する。県の財政負担の軽減と良質なサービスを心掛ける。との答弁があり、さらに、2020年度に事業公募を行う旨の話がありました。



テーマ② マリンバイオテクノロジーを活用した産業振興について質問し、知事からは2030年の世界市場が180兆円と見込まれるバイオ関連産業は、大学や研究機関、企業などが参画する「フォーラム」を立ち上げ、研究成果を産業現場に繋げていく。また、プロジェクトの中核拠点として清水マリビル内に「マリンオープンイノベーションパーク」通称「マオイパーク」を設置し、海洋微生物のライブラリー化やバイオ情報、海況情報など様々なデータを収集・分析し、企業の研究開発の基盤を整備する。そして、水産業での新たな種苗技術の開発、海洋由来の機能性食品や医薬品の開発、藻類を活用したバイオ燃料の生成、水の研究を通じた水産資源の保全を進めていく。との強い意志を感じる答弁でした。

テーマ③ 社会健康医学の研究の取組状況と大学院大学の設置に向けた準備はどうなっているか、との質問に対し、知事からは、保健師が、健康状態の将来予測や疾患リスクに基づく適切な保健指導を行える仕組みを開発するなど、研究成果を県民の健康長寿の延伸につながる施策に取り入れる。医療や公衆衛生の現場においてリーダーとなりえる人材を育成する。県では、社会健康医学で得られた知見を基に日々の診療や健康指導において、より効果的な疾病予防対策・健康増進施策を担うことが出来る人材育成のため、本年度中(30年度)に基本構想を策定し、大学院大学の設置に向け、文部科学省へ認可申請を進めていく。との答弁があり、さらに、本県における健康寿命延伸の中核的役割として「知と人材の集積拠点」となるよう、2021年4月の開学を目指す。と話されました。

テーマ④ ICT人材の確保と育成戦略について、どのように施策展開するのかとの質問に対し、全国初の試みで国内有数のICTベンチャーと高い技術力を有する県内企業とをマッチングする商談会を開催。また、高い付加価値を生み出すICT関連企業の誘致に向けた新たな助成制度を創設し、ポテンシャルの高い駅前(東静岡駅等)や自然豊かな中山間地など企業立地や人材集積を促す。さらに、AIやIoTの活用やデータ分析の出来る企業の中核的人材を県内大学と連携して育成し、小中高生を対象としたプログラミングコンテストの開催等、次世代人材の育成を進める。との答弁がありました。

テーマ⑤ 静岡県茶業振興条例案の制定により、どのような方針で茶業振興に取り組むのかとの質問に対し、市場ニーズに対応した茶産地の構造改革と国内外の需要の掘り起しが必要であり、茶産地の構造改革に向け、市町やJAと連携して、茶園の地形等にに応じた基盤整備と集積を進める。具体的には、平坦地を中心に大型機械導入による大規模低コスト生産で、ドリンク需要への対応を図る。また、有機てん茶の生産に適した中山間地では、有機認証の取得や加工施設の整備等の支援を充実する。一方で、需要の掘り起しのため、国内では静岡茶の新たな利活用分野の創出と商流開拓に挑み、国外では健康志向の消費者の購買意欲を高めるため、カルフォルニア大学デービス校の協力を得て、静岡茶の機能性をアピールする。との答弁がありました。

テーマ⑥ 県立学校の老朽化対策について今後の対策を質問したところ、昭和56年以前の校舎は、高校と特別支援学校を合わせると125棟あり、今後、建替えや長寿命化改修を行う。経費の平準化を図りながら、毎年、数棟の建て替えを行う計画を策定する。来年度は、老朽化が著しく、早急に対策が必要な高等学校4校の校舎の建て替えに着手する。来年度予算案に設計費を計上している。との答弁がありました。

【主観】県内の高校によっては、来年で築60年になる古くて暗い校舎が存在します。老朽化対策を決断した県の方針を大いに歓迎します。静岡東校、城北高校の早期建て替えを進めていきます。

厚生委員長としての1年間を振り返り

30年度は議会の役割として、厚生委員長を務めました。

静岡県の東部・中部・西部、地域のバランスの取れた医療・介護・福祉の充実に心がけ、発達障害者支援センターの新設、障害児者の歯科診療所の確保・新設、児童相談所人員の充実等、出先機関へのきめ細やかな支援体制を整えました。

また、子ども医療費については、高校生(ワンコイン)無償化に政令指定都市にも県費を投じることが決定し、静岡市と浜松市と足並みをそろえて、10月からスタートすることになりました。

独立行政法人静岡県立病院機構(三病院)の中期計画では、31年~35年までの5年間の計画と県負担金の審議を行い、「県民の命を守る最後の砦」としての病院の役割を再確認しました。

非常に実り多い厚生委員会の一年であったと、委員の皆さんと県職員様のご協力に深く感謝申し上げます。

平成31年3月吉日発行

発行責任者 林 稔久

編集担当 上條、小泉、島村、田中

静岡市駿河区八幡5丁目14-13

TEL:054-287-0939 FAX:054-286-4096

